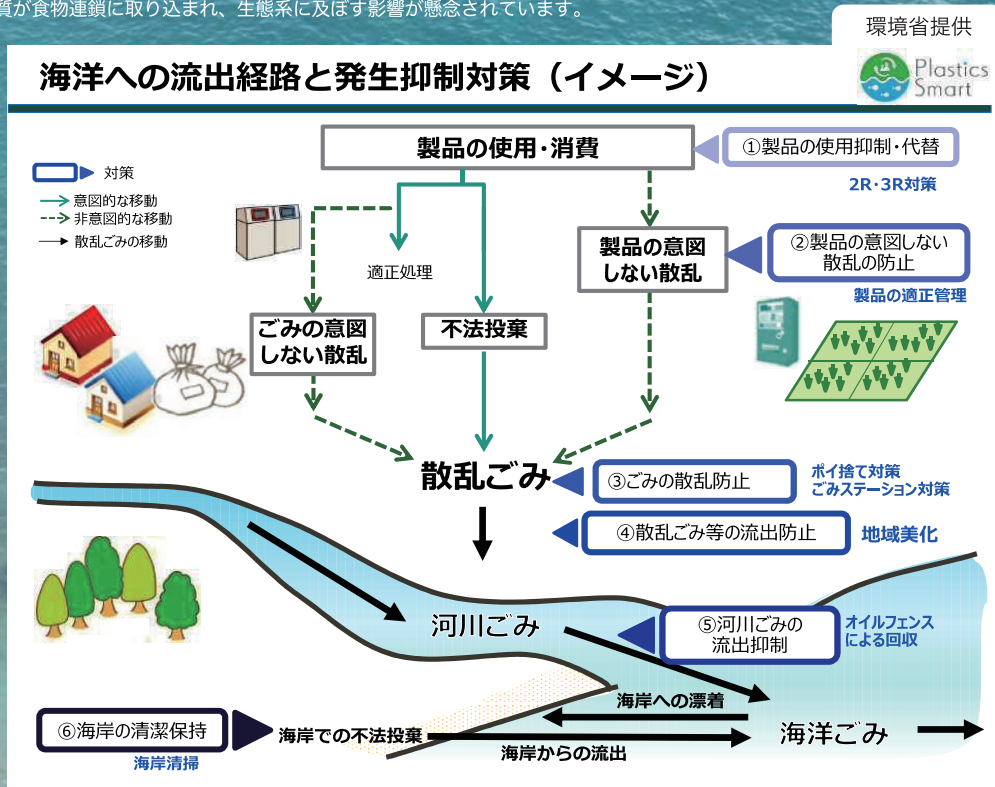


かごしまの海岸や きれいな海を守るために ～私たちにできること～

海岸漂着物（海洋ごみ）が問題となっています。

海岸漂着物の推移について、「国際海岸クリーンアップ」（主催：一般社団法人JEAN）のまとめによると、全国で最も多かったごみは、1990年代は「タバコの吸殻・フィルタ」でしたが、2000年以降は「硬質プラスチック破片」となっています。また、「プラスチックシートや袋の破片」および「飲料用プラボトル」がこの30年で大きく順位を上げています。プラスチックごみは、長時間漂流している間に砕けて小さくなり（マイクロプラスチック）、回収が困難になってしまいます。

※）マイクロプラスチック：微細なプラスチック類（5mm以下）のこと。含有・吸着する化学物質が食物連鎖に取り込まれ、生態系に及ぼす影響が懸念されています。



①～⑥の 具体例

私たちにできることがあります。

- ① 日々の生活から出るごみを減らしましょう。（使い捨てをなくし、レジ袋削減・マイボトル持参に取り組み、繰り返し使える物や簡易包装を選ぶ など）
- ② 屋外での物の放置に気をつけましょう。（プラスチック製の洗濯バサミ、ハンガー、子供のおもちゃなどを屋外に放置すると、劣化し、破片が風雨により側溝や水路から川に流れ込んで、海に流出します。プラスチック素材の土足マットの破片もマイクロプラスチックになります。）
- ③ ごみは所定の場所・時間に、散乱しないように出しましょう。
- ④～⑥ 地域や道路の美化活動、川や海岸での清掃活動などに参加しましょう。

吹上浜クリーン作戦 (日置市)



日置市では、日本三大砂丘の一つであり、日本の渚百選にも選ばれている吹上浜の優れた大自然を守り続けるため、7月の海の日前後の土曜日、日曜日に、吹上浜周辺の環境美化活動の一環として、企業や自治会、小中学校等から約 2000 人の参加を得て「吹上浜クリーン作戦」を実施しています。

マイクロプラスチック問題を考える学習プログラム (重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム)

錦江湾の海岸に漂着しているマイクロプラスチックを実際に採取し、その問題を実感してもらう学習プログラムを実施しています。



錦江湾クリーンアップ作戦 (鹿児島湾沿岸)

鹿児島湾(錦江湾)では、2000年より年2回、春と秋に湾岸自治体と地域住民、地域企業が協力し、海岸清掃活動を行ってきました。これまでの参加者は14万人を超えています。



破片化しない 硬質フロートの利用 (垂水市漁業協同組合)

鹿児島県はブリ・カンパチ養殖日本一の養殖県。これまで養殖生簀の浮力体には発泡スチロール製のフロートが使われていましたが、耐久性が低く、小さな破片が発生するという問題点がありました。鹿児島湾の養殖業者は、20年前より耐久性が高い硬質フロートへの転換に取り組み、日々、美味しい魚を生産しています。



くのに松原クリーンアップ大作戦(大崎町)

志布志湾の中央にある大崎町くのに松原海岸。整備された黒松林を抜けると広大な砂浜海岸が広がります。ここでは20年前に始まった小さなクリーンアップが現在は参加者600名の活動に発展。砂浜海岸から黒松林内の清掃活動を通じて海岸景観の保全に貢献しています。



かごしまの海を きれいにする 取り組み事例

「拾ってカエル喜界島」 喜界島クリーンアップ・プロジェクト(喜界町)

喜界島では、「ゴミがなかったらもっと、もっと、美しい」を合言葉に、漂着ごみをみんなで無理なく少しずつ拾って島をキレイにする活動が行われています。個人で拾う活動では「拾い箱」が活躍しています。



「拾い箱」 人が来るほどキレイ になる砂浜へ(与論町)

2017年より、海ごみを拾うための「拾い箱」を設置。島民も観光客も砂浜をキレイにする地域を目指しています。同様の活動は奄美群島沖永良部島や喜界島も実施中。

鹿児島県海岸漂着物対策推進協議会では、毎年6月1日から8月31日を海岸等清掃活動の重点実施期間と定め、その間に実施される活動を「かごしまクリーンアップキャンペーン～きれいな海をかごしまから～」として位置づけ、海岸等清掃活動への参加等を広く呼びかけております。各地で予定されている海岸及び河川清掃活動の実施計画は「鹿児島県ホームページ」でお知らせしておりますのでご覧ください。

かごしまクリーンアップキャンペーン

検索

